

アイヌ文化伝承者の世界

札幌で企画展 浦川太八さん紹介



工房で木彫りをする浦川太八さんを撮影したニシカワさん

アイヌ文化の伝承者で、

浦河町在住の浦川太八さん(79)の世界を紹介する企画展が、札幌市北区のギャラリーエッセで開かれている。自身が製作したマキリ(小刀)などの道具類約30点と、イタリア在住の写真家ニシカワヨシエさん(62)が撮影した浦川さんのポートレートなど写真パネル10点を展示中だ。

浦川さんは、一年を通じて狩猟や漁労を行いながら、マキリやタシロ(山刀)など、そのための道具を自作している。猟師と木彫家の二つの顔を持つアイヌは、現在は「ただ一人」と

も言われている。その作品は、北海道アイヌ伝統工芸展の知事賞なども受賞した。

浦川さんを撮影したニシカワさんは札幌市出身。長く、ファッションや宝石などコマースシャル写真を撮ってきた。5年ほど前、イタリア・ミラノの日本総領事館で開かれたパーティーで、居合わせたイタリア人女性に「北海道出身ならアイヌ文化のことはよくご存じですね」と聞かれ、返す言葉がなかったのが、アイヌに関心を持つきっかけになった。その後、「ゆっくりと勉強してきた」が、様々な巡り合わせが重なり、今年、浦川さんを撮影する機会に恵まれた。

展示されている写真は、

浦川さんがフキやコゴミを採集している様子や、工房で木彫りをしている姿など。ドキュメンタリー写真を初めて本格的に撮ったというニシカワさんは「コロナ禍で世の中は大きく変化しているのに、浦川さんの生活に変化はない。最小限の生活で、人間として最大限に生きているからだ」と感じたという。

将来的にはイタリアでも展覧会を開き、「アイヌの今」を世界に伝えていきたいと考えている。

「浦川太八の伝承を考える会」主催。8日まで。入場無料。問い合わせは同会(011-615-6806)へ。

道北

旭川 稚内